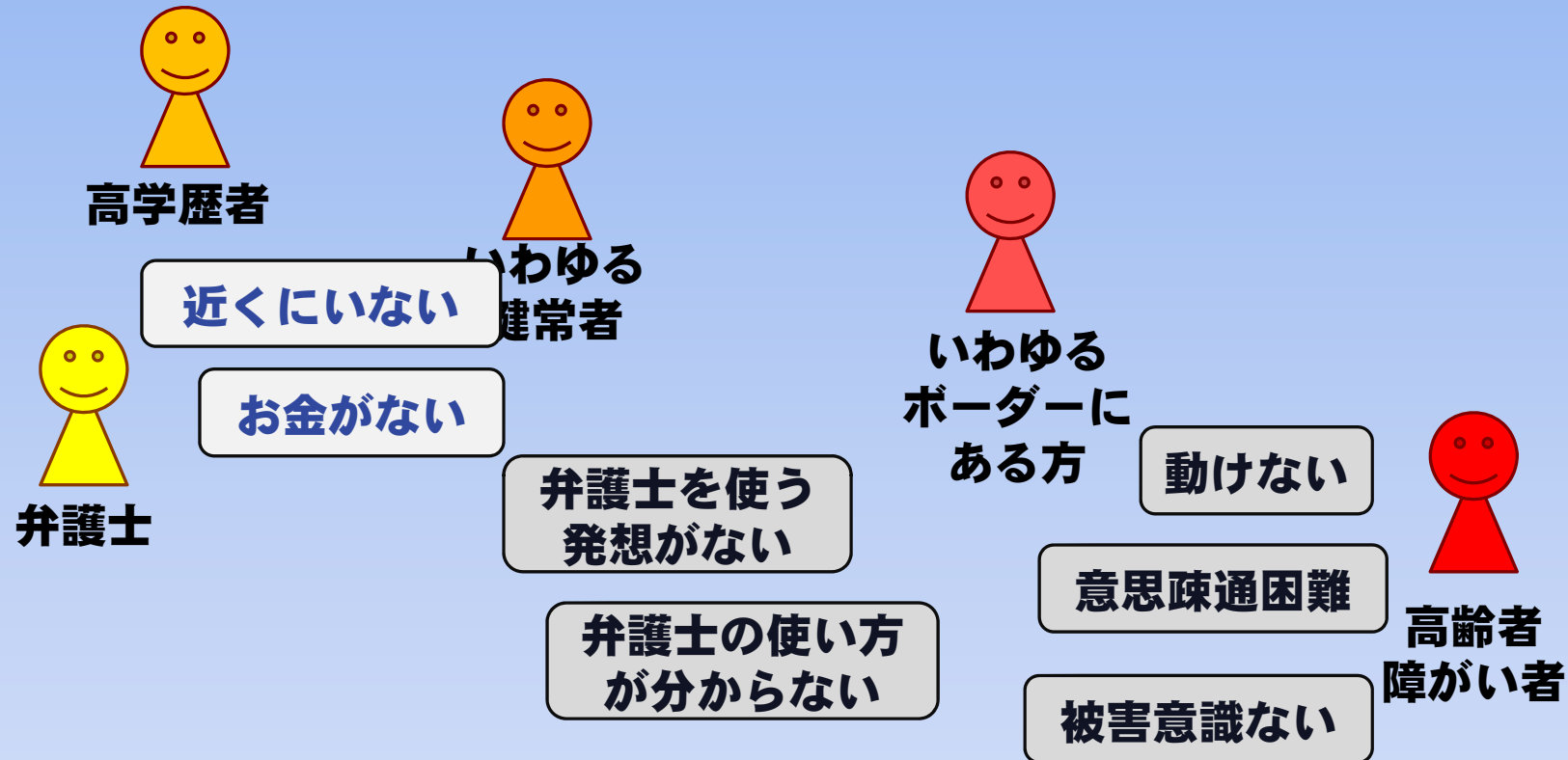


# 司法への「アクセス障害」



# とある法律相談

振り込め詐欺被害にあいました。預金も底をつきてしまって…

役所に相談したら、法律相談を紹介されました。



高齢者

# 振り込め詐欺・投資詐欺

- **なんで減らないのか。**
  - 被害者：高齢者・障がい者
  - 気づかない。声すらあげない。
- **弁護士にくるころには末期症状**
  - 「すってんてん」になってから相談
  - 詐欺師は実態不明・回収困難
  - 死亡宣告するだけみたいな作業

# 誰か気づかなかったの？

被害を未然に防ぐのがなにより大事

- ・ ヘルパー・ケアマネなど

「もやもや感」をもったりする

→「では弁護士に」とはならない

∵「もやもや」は法律相談ではない

→弁護士とのフラットな関係必要

職場の同僚の世間話のイメージ

→事実確認のための協働・役割分担

→早期介入・被害の食い止め

市民レベルでの「予防法務」

# 司法への「アクセス障害」

いかにアウトリーチするか

高学歴者

近くにいない

いわゆる  
健全者

いわゆる  
ボーダーに  
ある方

弁護士

お金がない

弁護士を使う  
発想がない

弁護士の使い方  
が分からない

動けない

意思疎通困難

被害意識ない

高齢者  
障がい者

それでも

困難事案の  
紹介に躊躇

私人を紹介  
することへの  
躊躇

橋渡しの役割

ニーズを拾  
いきれない

職員も法的  
問題だと気  
づかない

フラットな関係で  
ないと気を遣う

福祉現場職員

# 「ソーシャルワーク」とは

厳密な定義は・・・書籍をごらんください・・・

**社会資源等との関係を調整して、  
より豊かに生きられるようにすること**

**⇨福祉関係者が日々やっていること**

→弁護士も早期の段階でここに関与すべき

**＝司法ソーシャルワーク**

# そんなの レアケースでしょ？

統合失調症

生涯有病率：約1%

障がい者

約5~7%

??

高齢者

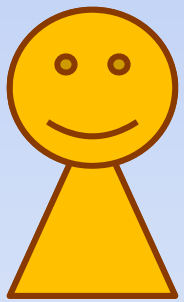
約23%

認知症：460万超

「いい生活」をしていると会えない

# 住民の悩み

近所にゴミ屋敷があります。  
高齢者が1人で住んでいるのですが、誰もアクセスできません。



住民



介護

チームとして  
できること

金銭搾取

福祉関係者の  
できること

弁護士の  
できること

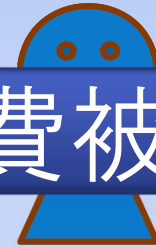
住居調整



後見申立



消費被害



弁護士

親族調整

福祉・医療関係者

ご本人



ゴミ屋敷

# 関係機関との連携の深まり

**第1段階**: 自治体・福祉機関との連携構築

⇒ 顔が見える関係, 勉強会, ケース会議出席等

**第2段階**: 個別事案における受連絡

⇒ アウトリーチして法律相談

**第3段階**: 福祉との役割分担による総合

解決に向けた取り組み

⇒ 個別案件のケース会議

**第4段階**: 具体的事件の受任による法的  
問題の解決

# 司法ソーシャルワークの効果

- **権利擁護・人権擁護的観点**

認知症になっても安心して暮らせるように  
幸せに生きられるように

早期発見・早期治療・軽くすむ

- **財政的観点**

金銭搾取→加害者：ほぼ納税していない  
資産課税もできなくなる

刑事事件でもコスト(裁判, 服役)